

しば子先生の

ミ

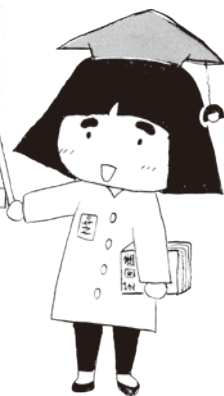
ニ

ミ

ニ

芝生教室

第111回 N量



先生：今回は実際に肥料設計を考えるとときに一番重要な窒素肥料の施肥量を考えてみましょう・・・

生徒：芝生にとっては窒素の施肥計画は最も重要ですね・・・

先生：そのとおりね・・・第50回で芝生の種類による窒素の要求量についての説明があるからもう一度読み直してね・・・第50回の表を見てもらえばわかるように芝生の種類によって**窒素の要求量**は違うわね・・・わかりやすくクリーピングベントグラスで考えると最適成長期の月のN要求量は㎡当たりおよそ**2～7g**になるわね・・・

生徒：2と7では3倍以上違いますね・・・中ぐらいの日本芝やライグラスは2～5ぐらいですから・・・

先生：そうね、窒素要求

量が高い芝生・・・ケンタッキブルー、クリーピングベントとかパミュダは別格なのよ・・・窒素をあげればあげるほど良い芝になる**能力**があるということ・・・逆に言えば要求度の中から低になっていくにしたがって肥料を沢山あげても抵抗

力のある強い芝にはなれない草種ということなのよ・・・

生徒：なるほど・・・

先生：例として東京の気温をもとに考えてみましょうね・・・表を見て頂戴・・・1890年の月平均と2020年の月平均、そしてその130年間の平均気温が書いてあるわ・・・

生徒：やはり 確実に気温は上がってますね・・・

先生：そうね・・・その130年間の月平均気温から、寒地型であるクリーピングベントグラスの最適気温を約20℃としてそれを最大成長月として月6g/Nとし、そこから±5℃の25℃、15℃で4g/N、10℃で3g、5℃で2gとして計算したのがHiの欄ね・・・

生徒：合計で年43g/㎡の窒素を要求しているということですね・・・

先生：もちろんこれは一か月の平均気温が一か月間毎日続いて毎日いいお天気だったという条件下でのあくまで試算だけど、まあ最

大このぐらい必要とする可能性があるということね・・・

生徒：確かに実際は暑い日も寒い日も曇りの日も雨の日もありますからこの通りには行かないですね・・・

先生：そうね、現実的にはこの三分の二の28gぐらいが現実的目安でしょうね・・・そしてローメンテンスの場合・・・

生徒：年間16gですね・・・

先生：そう・・・このN量ではストレスの高いグリーンでの管理は厳しいかもしれないわね・・・例えば中国の昆明という所は『常春』と言って一年中春のよう

【東京の月平均気温とN要求量試算】

月/℃	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
1890年	3.4	6.1	9.2	14.2	16.1	22.0	23.5	25.4	24.2	16.0	10.8	9.3	
2020年	7.1	8.3	10.7	12.8	19.5	23.2	24.3	29.1	24.2	17.5	14.0	7.7	
130年間平均	4.2	4.9	8.0	13.5	17.8	21.2	25.1	26.5	22.8	17.0	11.7	6.7	
N/g/㎡(Hi)	2	2	3	4	4	6	4	3	6	4	3	2	43
N/g/㎡(Lo)	0	0	2	2	2	2	2	1	2	2	1	0	16

な季節の場所があるけど、そのベントグラスのコースは毎月最適生長月になるから6g/N×12か月で年間72g/㎡の窒素が必要となる計算だわ・・・

生徒：確かに一年中春ならそうなってしまいますね・・・日本では考えられない量ですね・・・

先生：大事なことは気温も最適で天気も良ければ芝生は自動的に光合成を始めるけど、土壌に養分が無ければ自分のたくわえを使ってしまふ、それが続くと自分の生育で消費していくエネルギーが勝ってしまつて衰退してしまうわ・・・

生徒：貯蔵養分も無いから簡単に植害が出て何があっても回復できないのでしょうか・・・

先生：そのとおりね・・・良く肥料を播くと伸びてしようがないから嫌だという人がいるけど、肥料をあげて伸びるということは逆に言う伸びることができる気候条件だということよ・・・そのベストシーズンに生長させて光合成をさせて養分を蓄えさせないといけないのよ・・・伸びるときは刈込の頻度も増やさないとね

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

